

6-3 2000年10月31日三重県中部の地震 (M5.5)

The earthquake central Mie district of Oct. 31,2000 (M5.5)

名古屋大学大学院理学研究科
Graduate School of Science, Nagoya University

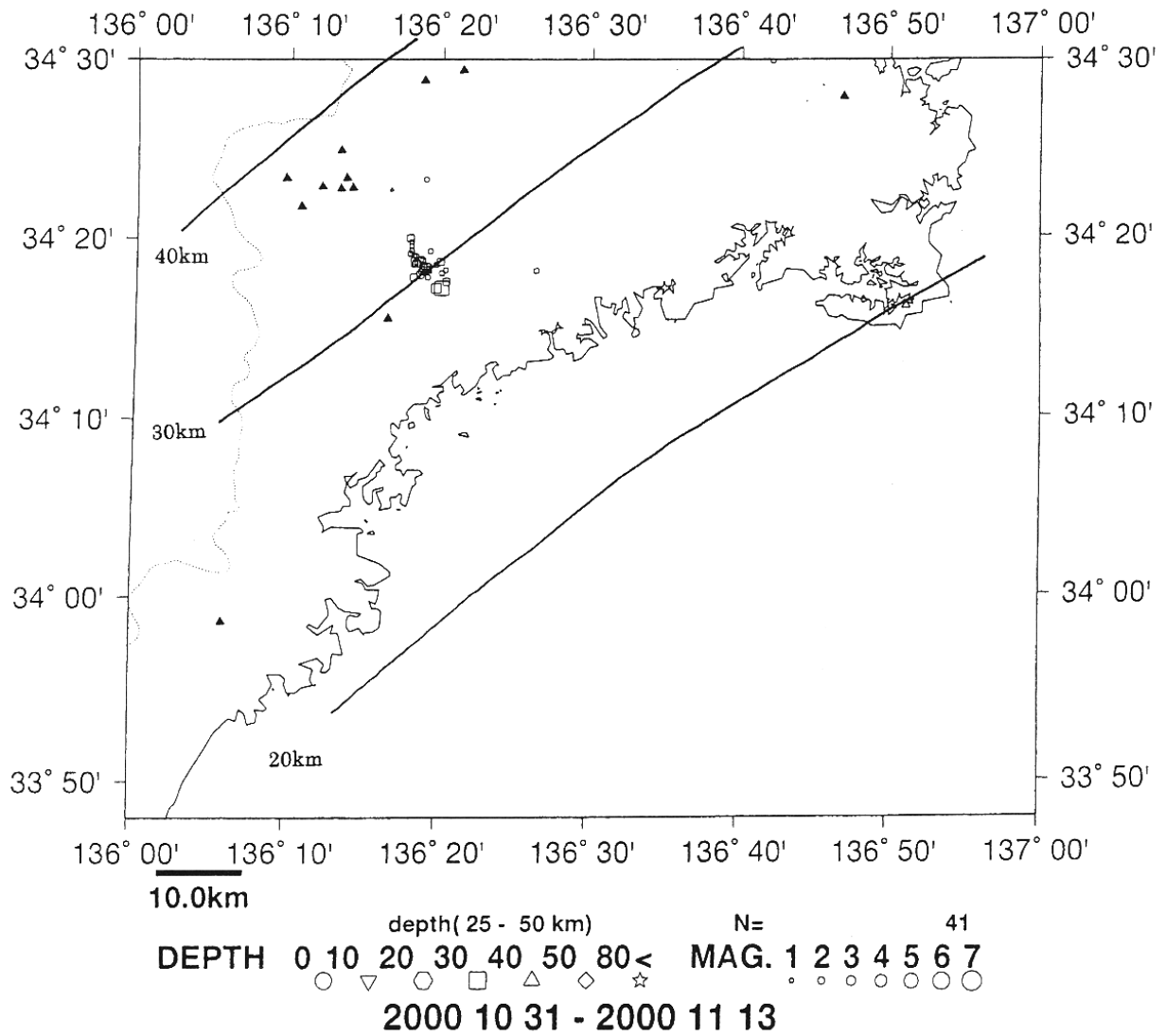
2000年10月31日01時42分に三重県中部でM5.5の地震が発生した。この地震の深さは33kmで11月13日までにおよそ40個の余震活動が認められた。この深さにおける定常的な地震活動度は低く、この地域としては目立った活動である。

名古屋大学、気象庁、地震研究所和歌山地震観測所のデータによって震源が求められた。名古屋大学では1999年4月からこの地域で臨時地震観測を実施していたので、比較的高密度の観測点で震源決定を行った。

余震の震央は、本震から北西方向に分布している。この付近のフィリッピン海プレート上面の深さ¹⁾は30kmで、余震は深さ33kmから40kmの間に発生している。この地震はプレート内の上面付近で沈み込みの方向に生じた断層運動と考えられる。

参 考 文 献

- 1) 山崎文人・大井田徹 1985,中部地方におけるフィリッピン海プレート沈み込みの形状,地震2, 38, No.2, 193-202.

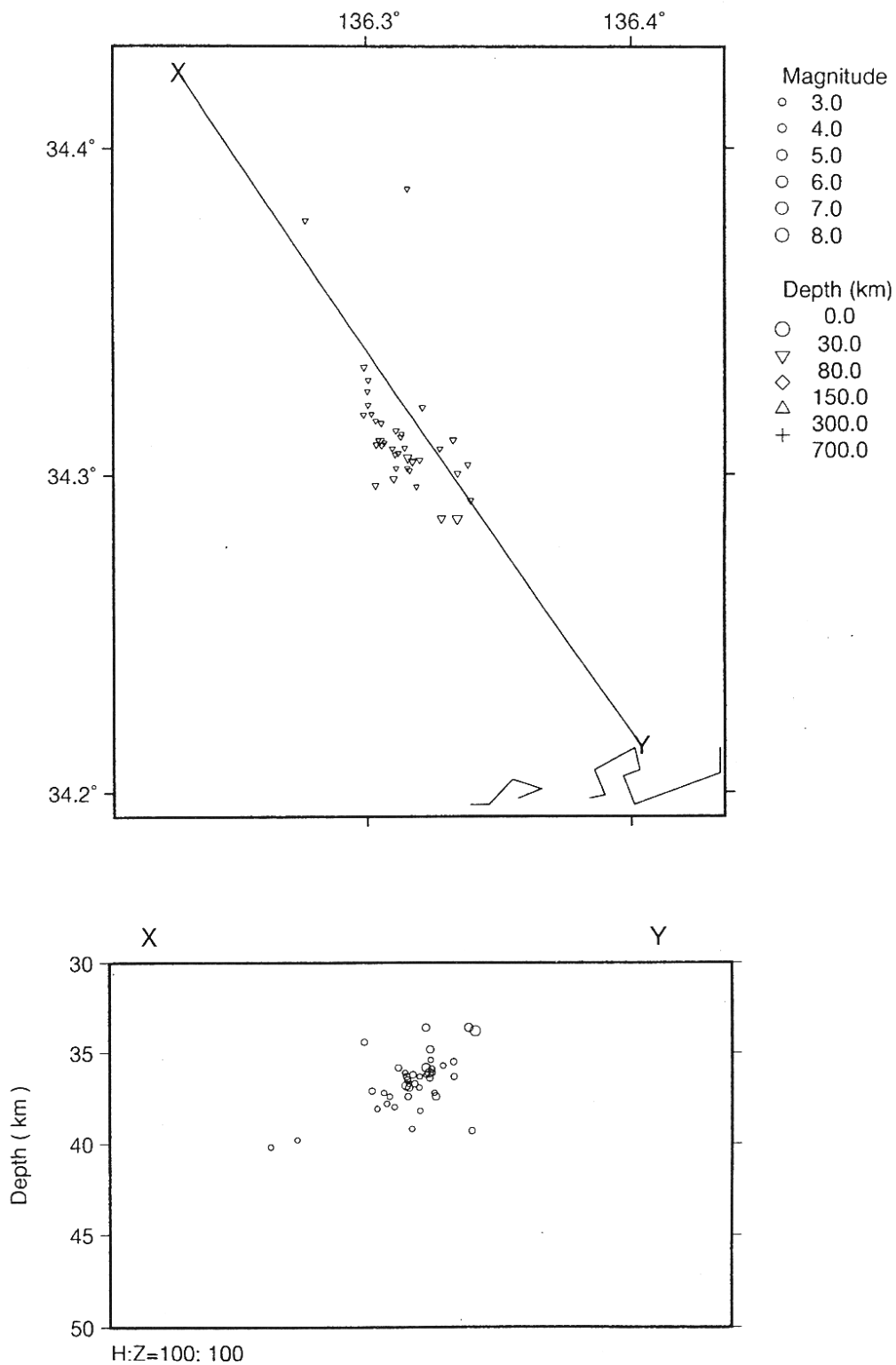


第1図 2000年10月31日、三重県中部の地震と余震の震央分布。

印は地震観測点、実践はフィリピン海プレート上面の深さを示す。

Fig.1 Epicentral distribution of the event that occurred in central Mie prefecture at 01:42 on October 31, 2000 and its aftershocks. Contour lines indicate the depth of the upper boundary of the subducting Philippine Sea plate. Solid triangles indicate the observation stations.

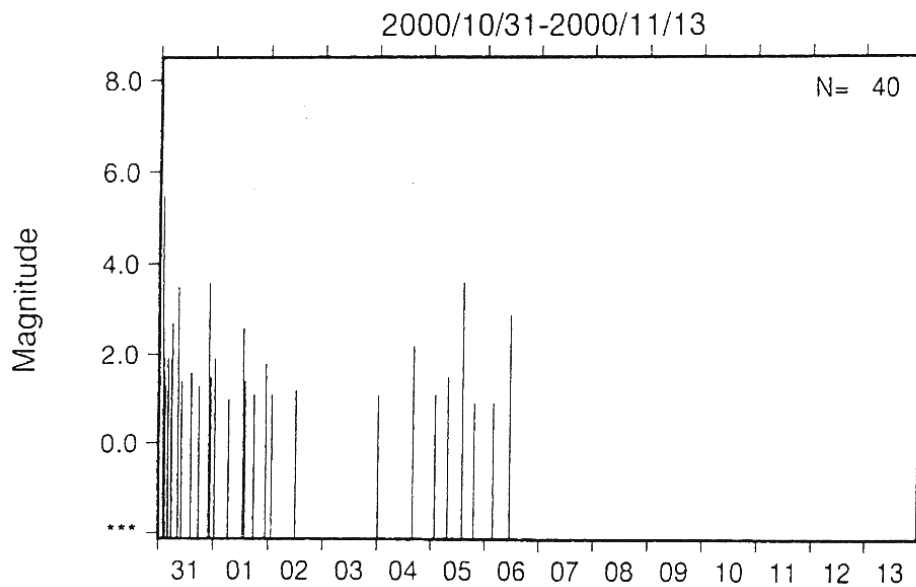
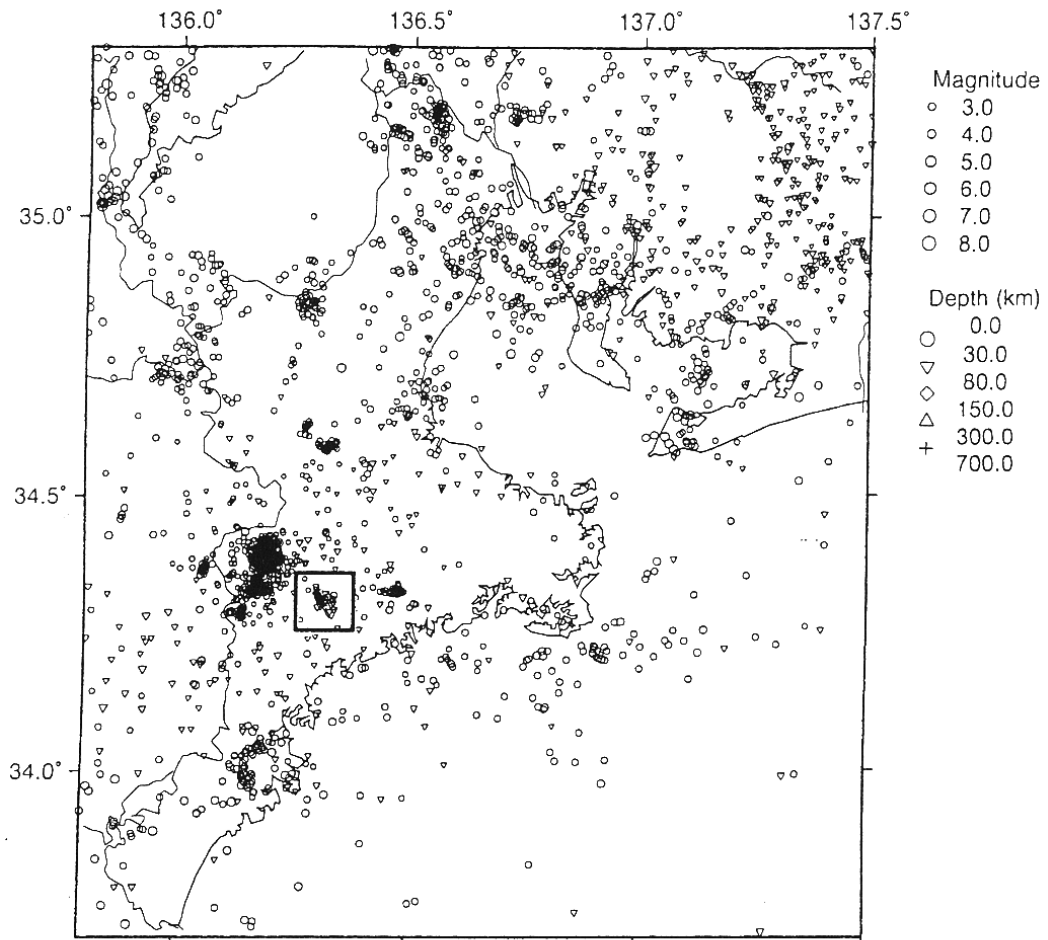
2000/10/31 00:00-2000/11/13 24:00 N= 40
H: 30.0- 50.0km M:0.0-8.5



第2図 余震の震央分布とX Y方向の深さ分布。

Fig.2 Epicentral distribution of main shock and aftershocks, and vertical distribution along the line X-Y .

1999/04/15 00:00-2000/11/13 24:00 N= 6157
H :0.0- 80.0km M:0.0-8.5



第3図 三重県の微小地震分布（1999年4月15日から2000年11月13日）と今回の本震と余震のM-T図。

Fig.3 Seismic activity around the event area from Apr. 15 1999 through Nov. 13 2000 (Depth: 0 - 80 km). Magnitude-time distribution of the event and its aftershocks.